



5月3日、東京・有明防災公園で岸田政権の暴走をストップさせ、安心して暮らせる社会をめざして「2023 憲法大集会」が開催されました。

約25000名（主催者発表）が参加した集会の様子をご紹介します

☆開会挨拶:高田健さん(5.3 憲法集会実行委員会)



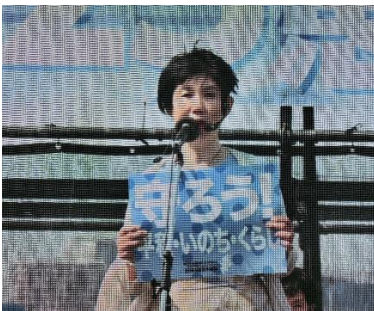
☆スピーチ:

あらたな戦前への流れを止める役割が集会にある:清水愛沙さん (室蘭工大教授)

これまでの中国との外交の成果こそいかにすべき:泉川友樹さん (沖縄大特別研究員)

辺野古新基地建設反対署名への呼びかけ

☆入管法問題・馬毛島の軍事基地問題・性差別問題についてのリレートーク



山岸素子さん (移住連事務局長)



前園美子さん (馬毛島の米軍基地に反対する市民・団体連絡会副会長)



宮子あずささん (看護師)

☆スローガン

私たちは

- ・改憲発議を許さず、憲法をいかし、平和といのちとくらしと人権を守ります。
- ・軍拡と敵基地攻撃能力保有の閣議決定を撤回し、外交努力での平和を求めます。
- ・辺野古新基地建設と南西諸島へのミサイル基地配備の中止を求めます。
- ・エネルギー危機と脱炭素社会を口実とした原発推進政策に反対します。
- ・ジェンダー平等の社会をめざします。
- ・これら実現のため岸田政権の暴走をストップさせ、安心してらせる社会をめざします。

☆野党代表(社民党・れいわ新選組・共産党・立憲民主党)も加わっての集会アピール



☆シニアネットの参加者の皆さん



・いつの間にか「軍拡」「原発再稼働」、議論も説明もないまま暴走する岸田政権への、いかりや不安の声が多く出された憲法集会でした。  
・「今ある憲法こそ守れ!」「不条理へのいかりを行動に表そう!」との呼びかけに共感の声がこだました憲法集会でした。

\*\*\*\*\*

《 記事 》 **憲法記念日「新たな戦前 避ける」**  
**護憲派集会に2万5000人 改憲派集会 首相、自民案「早期実現を」**  
東京新聞 2023年5月4日 朝刊 1面

日本国憲法は三日、施行から76年の憲法記念日を迎えた。岸田政権が敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有など安全保障政策を大きく転換する中、各地で集会が開かれ、護憲派は「憲法を無視している」と平和主義の形骸化を批判。対する岸田文雄首相（自民党総裁）は改憲派へのビデオメッセージで「憲法改正に向けた機運をこれまで以上に高めることが重要だ」と強調した。

護憲派は東京都江東区の有明防災公園で大規模集会を開催し、25,000人（主催者発表）が参加した。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」共同代表の高田健さんは、「岸田政権は専守防衛を放棄し、敵基地攻撃能力保有など戦争準備をしている。任期中に改憲すると言っているが、絶対に止めないといけない」とアピール。室蘭工業大の清末愛砂教授（憲法学）は、敵基地攻撃能力を盛り込んだ安保関連三文書について「憲法を無視し、解釈改憲で大軍拡の道を開いた。『新たな戦前』を避けるため、つながりの輪を広げよう」と呼びかけた。

一方、首相は東京都内で開かれた改憲派の集会に寄せたメッセージで、自民党が掲げる（1）自衛隊の明記（2）緊急事態条項（3）教育の充実（4）参院「合区」解消一の改憲四項目に触れて「いずれも極めて現代的な早期の実現が求められる課題」と訴えた。

自衛隊の明記に関しては「力による一方的な現状変更の試みの深刻化や、北朝鮮の度重なる弾道ミサイルの発射など、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中で、自衛隊を憲法にしっかりと位置付けることは極めて重要なことだ」と主張した。

（メモ）

憲法記念日 祝日法では、1974年5月3日の日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する日とされた。憲法が公布された11月3日は「憲法で戦争放棄という重大な宣言をし、国際的にも文化的意義を持つ重要な日」として「文化の日」と名付けられた。

護憲派の集会では参加者の高齢化が叫ばれる中、若者の姿もあった。平和主義が揺らぐ現状に何を思うのか。

\*\*\*\*\*